

イラクと日本

2009年3月22日

このところイラク情勢もかなり落ち着いてきたようで、報道等もずいぶん少なくなっている。一方で、米国のオバマ新大統領は、2011年までのイラクからの撤退を選挙公約からやや遅れたスケジュールにはなったが、具体的な作業に入っている。また、紆余曲折がありながらも、イラク政府と米軍地位協定も締結された。イラク政府もマリーキー首相は、本年1月の地方選挙で勝利(対象14州のうち10州で勝ったと言われている)もあり、米軍撤退後に向けて着実に地盤強化しているようだ。2003年5月のブッシュ大統領による「イラク戦争終結宣言」後、イラク人9万人以上、米軍兵4,200人以上とされる死者数もこの数カ月は相当に減少している。

日本の自衛隊も陸上自衛隊はサマワから撤退、航空自衛隊輸送業務支援も終結し、第2次大戦後初の自衛隊の実質的な海外派遣は大きな事故なく終わった。

このサマワに日本の援助で建設完成した発電所(60万kw)が完成し、昨年12月22日に引き渡し式が行われ、橋本聖子外務副大臣が出席したのは日本のテレビのニュースでも流れた。今年1月には、安倍晋太郎元首相(麻生首相特使)がバグダードを訪問し、「日本・イラク包括的パートナーシップ構築宣言」署名式に出席している。日本政府は、過去16.9億ドルの無償資金援助を実施、円借款も12案件24.5億ドルの交換公文の署名をしている。これに併せ、JICA(国際協力機構)は、2009年3月に首都バグダードと北部イルビルに事務所を開設することになっている。



完成したサマワ発電所

Office Okita

イラクの経済情報は、なかなか信頼に耐えうるものが入手できず苦慮しているが、本年3月に中東協力センターが中東ビジネスフォーラムを開催した際、イラクの計画省(筆者もかつてこの役所とは、工事代金支払い遅延問題で何度も支払い繰り延べ契約の交渉で苦労させられたのを思い出した)が作成した資料から少し抽出してみる。

GDP 2007年:約899億ドル

(2000年:251億ドル、1975年:131億ドル)

一人当たりGDP 2007年:2,985ドル

(2000年1,042ドル、1975年:1,112ドル)

失業率 最新調査:12%

(2007年:15%、2005年:18%)

この数字が、どこまで信頼性があるかの判断は難しいところであるが、日本の外務省の資料からも、GDPは2004年257億ドル、2006年は470億ドル、同じく一人当たりGDPは2004年942ドル、2006年1,647ドルとなっており、2004年IMF推定値、2006年は国連統計部と出所は異なるが、GDPの過半数を占める原油価格の趨勢や、治安の回復等からみて大きくはずれてはいないものと思える。

また、このプレゼンテーションは海外直接投資の誘致が目的であったことから、2006年に制定した「投資法」について強調していたが、これについてはもう少し研究してから、改めてレポートしたい。

イラクの駐日大使ガーニム・アルジャマリ博士が、4月にサウジアラビア大使に転出される前にお話を聞いたので、その中で印象的だった部分を少し書いてみる。

1. 日本の自衛隊のサマワ駐留と支援についての、サマワ住民の意見調査結果
満足 75%
不満足 20% (ほとんどは、自分に仕事が回ってこなかったから不満足としている)
自衛隊は占領軍ではない 80%
2. イラクは石油があり、日本は電気・電子等技術がある。両国の経済は良いシナジーを生み出せるはずである。イラクの復興に日本企業に積極的に参加してもらい、1980年前後のような強い協力関係を作りたい。
3. 米軍の撤退については、イラクと米国の関係は軍事的なものではなく、平和的なものであるべき。

なお、「フセイン元大統領の人気について」という質問に対し、非常に温厚、知的で紳士的な印象の大使が、「彼のような dictator には、I do not feel any sympathy, not respect, not support」とやや感情的になられていたのが、印象的だった。

大喜多 富美郎